

令和4年度事業報告

◎ 令和4年度事業の概要

当会は、住み慣れた地域でその人らしく暮らすことができるよう、地域福祉活動計画に基づき事業を進めております。

令和4年度においても、幅広い分野間において新しい協働関係を構築し、住民と一体となった取り組みをより一層促進し、居場所づくりを目的とするサロン活動や地域の困りごと解消など、地域支え合いの仕組みづくりを進める予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、一部事業が実施できない状況となりました。

介護事業においては、長引く新型コロナウイルス感染症の影響から、新規利用者が伸び悩む状況になりましたが、制限を受けた環境の中でも利用者が安心して生活することができるよう、感染防止に努めながらサービス提供を維持してまいりました。

また、障がい児通所支援事業においては、1日の利用定員を適切な定員数に変更し加算を受けられる体制を整えましたが、冬期間には新型コロナウイルスの影響が大きく現れ利用者数が減少し、厳しい状況が続きました。

経営面においては、令和2年度に策定した経営改善計画に沿って経営の健全化に努めておりますが、通所介護事業については、今後も大幅な収支改善が見込めないことから、指定管理期間終了の令和5年度をもって事業を廃止する方針を決定しました。

以下、令和4年度事業計画に沿った推進項目について報告します。

「重点事項」

● 地域ふれあいサロンの充実

地域ふれあいサロン活動団体に対し、立ち上げ支援として助成金の交付を行うとともに、サロン活動者を対象に研修交流会を開催し、サロン活動の充実に努めた。

なお、ふれあいサロンの普及を図ることを目的に、出張ふれあいサロンを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。

● 運営基盤の強化と財源確保

安定的な自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行った。

また、職員が各自の役割を的確に遂行できるよう、意識改革と資質向上を図るため、オンラインの各種研修会や講習会に積極的に参加した。

● 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化

介護事業等の福祉サービスについては、計画に沿って経営改善に努めたが前年度と比較して利用者増とはならず、全体として計画値に届くことなく大変厳しい経営状況が続いている。

特に通所介護事業や居宅介護支援事業においては、施設入所や入院も多くあり利用者の増加とはならなかった。

1 地域福祉の推進

新型コロナウイルスの影響により、変化した地域生活課題の把握及び課題解決に向けた地域福祉活動の支援を行うとともに、ボランティアの養成、除雪ボランティアの派遣、権利擁護支援、児童・生徒の福祉学習支援など、感染予防対策を行いながら、一部事業を中止したが、従来からの事業の再開に努めた。

また、生活福祉資金特例貸付の延長及び終了に伴い、新型コロナウイルスの影響により収入が減少した世帯に対し、必要な資金の貸付や償還に関する相談援助などの支援を行い、住み慣れた地域で安心して暮らせる地域づくりの推進に努めた。

(1) 地域住民の声を反映できる課題把握と情報共有

①地域福祉懇談会の開催

当会が実施する地域福祉活動の理解促進と地域住民が抱える生活課題等の把握を目的に地域福祉懇談会の開催準備を進めていたが、新型コロナウイルスの影響により次年度に延期した。

②実施事業からのニーズ調査

各実施事業・講座ごとにアンケート調査を行い、ニーズに沿った事業展開や講座内容の充実を図るため、検討を行った。

□アンケート実施回数「地域福祉活動推進セミナー」他 15 回

(2) 相談支援体制の充実

①各関係機関等との連携強化

様々な相談に対応するため、各相談機関の会議等に参加し、連携強化に努めた。

□出席回数 32 回「生活サポートセンターりんく支援調整会議」他

②民生委員児童委員との連携

民生委員児童委員協議会役員会及び定例会に参加し、各種事業の説明等を行うとともに、市民から寄せられる困りごとについて情報共有を図るなど、民生委員児童委員との連携を深め、地域における相談支援促進に努めた。

③部署間横断の相談支援の充実

市民の日常生活上の様々な困りごとの相談に応じるため、社協内の部署間で情報共有・連携を図り、解決に向けた適切な助言・支援に努めた。

(3) 地域住民と共に進める支え合い活動や交流活動の促進

①小地域福祉ネットワーク活動事業

小地域（ふれあい推進協議会・地区協議会・町会等）を基盤として展開する地域住民による見守り、安否確認活動や身の世話等の日常生活支援活動に対して助成を行い、地域における支え合い活動の活性化に努めた。

□助成金 2,912,580 円

②町会等除雪ボランティア支援事業（岩見沢市からの受託事業）

自力で除雪が困難な独居高齢者世帯や身体障がい者世帯等の要援護者世帯に対し、地域のボランティアによる玄関前等の除排雪活動に助成支援を行い、地域住民同士の支えあい活動の充実を図り、冬期間における要援護者世帯の日常生活の安全確保に努めた。

□対象世帯 1,159 世帯 助成金 6,558,200 円

③除雪ボランティア派遣事業

自力で除雪が困難、かつ家族や親類等からの協力が得られない高齢者世帯や身体障がい者世帯などの要援護者世帯に対して、除雪ボランティアを派遣し、間口の拡幅や暖房器具の給排気筒等付近の除雪支援を行った。

□登録者 個人 7 人・3 団体

□支援世帯数 延べ 20 世帯

④地域ふれあいサロン事業【重点】

高齢者や障がい者及び子育て中の親子など、外出の機会が少ない方々の閉じこもり予防と安否確認や生活課題の把握等を目的に、世代を超えた誰もが参加できる地域交流活動の立上支援を行うとともに、活動者研修交流会の開催や他機関の活動助成金等の情報提供を行い、事業の活性化に努めた。

□登録サロン数及び助成金額

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
登録サロン数	25 団体	22 団体	21 団体
助 成 金 額	78,000 円	12,000 円	28,000 円

※令和 4 年度 新規サロン 1 団体（ひまつぶし食堂）

ア 出張ふれあいサロンの開催【中止】

新規ふれあいサロンの普及を図ることを目的に、ふれあいサロン未設置地区での出張体験サロンを行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

イ 地域ふれあいサロン活動者研修交流会

サロン活動に活用できる体験演習などを通して、活動内容の充実と実践者同士のネットワークを構築し、今後の活動の更なる充実を図った。

□3 月 30 日 参加者 16 人

⑤レクリエーション用具貸出事業

新規のレクリエーション用具を購入し、地域ふれあいサロン団体に貸出一覧表を配付するとともに、当会広報誌及び HP に掲載し、利用促進に努めた。

しかし、新型コロナウイルスの影響もあり貸出実績がなかった。

□貸出件数 0 件

□購入品 モルック 2 組・ボッチャ 1 組

⑥福祉団体等の活動支援

障がい者等の福祉団体へ活動費助成を行い、団体の使命や特徴を活かした活動の活性化に努めた。

□福祉団体助成 8 団体 240,000 円

⑦やさしい在宅介護講習会の開催

在宅介護に係る講話や一般的な介護方法等について演習等を行い、家庭や地域で孤立することなく豊かな生活を送るための一助として、介護知識・技術の向上及び在宅で介護に取り組む方々の日常の悩みや負担の軽減に努めた。

□11 月 17 日・18 日 参加者 6 人

⑧高齢者趣味と教養・健康増進支援事業

岩見沢市老人クラブ連合会主催の各種事業に対し助成を行い、高齢者が個々の技能や趣味を活かした社会参加を通じ、仲間づくりや生きがいの場づくりをする活動を支援した。

□10 月 2 日 高齢者ウォーキング大会 助成金 80,000 円 参加者 81 人

□11 月 12 日 囲碁将棋大会 助成金 20,000 円 参加者 28 人

□岩見沢市高齢者文化祭【中止】

⑨金婚祝賀会開催事業

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、祝賀会を中止し、金婚該当者に対して、お祝いメッセージと記念品を郵送して祝福した。

また、今後の事業の在り方について、金婚を祝う会実行委員会において協議した結果、令和 4 年度を持って、金婚祝賀会開催事業の廃止を決定した。

□該当者 252 組（504 人）

□お祝いメッセージ（市長・実行委員長）

□記念品 白米食べ比べセット 2 合×5 種

（４）地域福祉への理解促進

①地域福祉活動推進セミナーの開催

町会・自治会関係者を対象に開催し、まちづくりに関する専門的講師の講話を通して、役員の担い手不足や高齢者等の課題解決の方法について学ぶとともに、新型コロナウイルスの影響により、延期・中止・自粛していた地域コミュニティ活動の再開やこれからの町会の運営方法について理解を深めるなど、地域福祉活動を支援した。

□6 月 17 日 参加者 22 人

②地域福祉出前講座

地域住民の福祉に対する理解や関心を深めること目的に、町会・自治会をはじめとする福祉団体等からの要望に沿って、当会職員等が講師となり出前講座を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。

③社会福祉功労者表彰の実施及び推薦

地域福祉活動及びボランティア活動に永年にわたり功労のあった個人・団体や当会

に多額の寄付をされた方、市内の福祉団体・施設において永年にわたり勤務された方に対して、その功績を讃え表彰式を行った。

また、活動を通じて社会福祉に貢献された市内各社会福祉関係者及び団体を北海道社会貢献賞をはじめ、岩見沢市の福祉活動功労者表彰などへ推薦を行った。

ア 岩見沢市社会福祉協議会 社会福祉功労者表彰 (敬称略)

功績表彰	杉 本 忠 義	西 下 摩利子	若 林 みゆき
	山 本 靖 子	横 田 むつみ	梅 田 早 苗
	山 本 俱 美	黄 瀬 亜 弥	高 橋 美智子
善行感謝	非 公 開	尾 田 則 幸	高 橋 武
	渡 辺 鉄 男	渡 辺 圭 子	大 坂 秀 雄
	宝 利 芳 一	水 島 茂	毛 利 裕 紀
	寒河江 強		
ボランティア功労賞	藤 田 明 子		
永年勤続表彰	菊 池 朱 美	西 田 泰 子	渡 部 裕 樹
	遠 藤 律 子	及 川 雄 貴	伏 見 知恵子
	山 下 三佐世	坂 本 澄 子	長谷部 文 子
	橋 本 千賀子	鈴 木 知 美	鈴 木 誠
	横 山 智 美	宇南山 佳 美	西 舘 康 子
	伊 藤 美 保	甲 森 康 子	神子島 典 子
	小 林 朋 央	蓮 池 将 文	森 山 美 幸
	矢 萩 むつみ	清 水 剛 史	田 村 元
	加 藤 洋 美	佐 藤 純 子	石 塚 祐 子
	佐々木 裕 子	堀 和香子	
功労表彰	山 本 博 光		

功績表彰 (9 人)・善行感謝 (10 人)・ボランティア功労賞 (1 人)・

永年勤続表彰 (29 人)・功労表彰 (1 人)

□10 月 31 日 岩見沢広域総合福祉センター

イ 北海道社会貢献賞

藤田 政利 (社会事業関係功労者)

□表彰式中止

ウ 北海道共同募金会会長表彰

ひとみの会 (共同募金運動優秀団体)

□表彰式中止

エ 岩見沢市福祉活動功労

越前 ゆり子・佐藤 れい子・相馬 チヤ子・池田 恵美子・宮崎 明美・
岡山 玉栄

□10 月 24 日 岩見沢市役所

(5) ボランティアセンターの機能充実

①ボランティアセンター運営事業

市民から寄せられるボランティアに係る相談支援やボランティア派遣のコーディネートを行うとともに、ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、情報誌やホームページ等を活用した情報発信を行いボランティア活動の促進に努めた。

また、ボランティアセンター運営委員会及び運営部会を開催し、各関係機関等との協力関係を深め、ボランティアセンター運営の充実に努めた。

□運営委員会の開催（2回）・運営部会の開催（随時）・定例会の開催（12回）

ア ボランティア登録団体・個人数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
登録団体数	26 団体	26 団体	27 団体
登録個人数	11 人	9 人	10 人

イ ボランティア相談・連絡調整件数

区 分	令和2年度	令和3年度	令和4年度
相 談 件 数	10 件	2 件	8 件
連絡調整件数	2 件	2 件	6 件

ウ ボランティア派遣支援

車いす介助等のボランティア派遣を行い、高齢者や障がい者など、その家族の日常の負担軽減を図った。

□派遣人数 23 人

②広報紙「おもいあい」の発行

ボランティア活動に関する市民の関心と理解を深めるため、ボランティアセンター広報部会によるボランティアセンター広報紙「おもいあい」を市内の公共機関等に設置し、ボランティア情報及び活動の周知啓発に努めた。

□発 行 3回発行（7月号・12月号・3月号）

□発行部数 各 1,500 部

③各種研修事業への参加促進

各会議等に参加し、ボランティアに係る先進的事例等の情報収集や研究討議を通じて、ボランティア活動の資質向上に努めた。

開催日	研修会等名	参加者数
	ボランティア愛ランド北海道 2022	中止
11 月 19 日	令和4年度空知地区ボランティア活動推進会議（オンライン）	1 人
1 月 26 日	令和4年度ボランティア強化セミナー（オンライン）	1 人
2 月 10 日	令和4年度空知地区ボランティア活動推進セミナー（オンライン）	21 人

(6) 地域を支えるボランティアの育成

①各種ボランティア養成講座の開催

オンライン（Zoom）の活用や定員数を減らすなどの新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、新たなボランティア人材の発掘と育成に努めた。

ア はじめてのボランティア講座

ボランティア活動に興味・関心がある方、ボランティア活動を始めたいと考えている方を対象に、ボランティア活動に対する基本的な知識や車いす介助体験演習を行い、ボランティアの人材発掘に努めた。

□5月28日 受講者4人

イ 点訳ボランティア講座

視力障がい者に対する理解と点訳についての知識と技術等を学習し、視力障がい者を支援する点訳ボランティアの養成を行った。

□6月1日～6月15日（全3回）受講者8人

ウ 手話奉仕員養成講座

聴覚障がいに対する理解促進と聴覚障がい者の社会参加、日常生活を援助する手話奉仕員の養成を行った。

□昼の部 6月24日～11月11日（全20回）受講者5人 修了者5人

□夜の部 6月21日～11月8日（全20回）受講者23人 修了者18人

エ 傾聴ボランティア講座

傾聴についての知識と技術や心構えなどを学び、傾聴に対する理解促進と地域や施設において活動する傾聴ボランティアの養成を行った。

□9月28日・10月12日・10月26日（全3回） 受講者8人

オ 精神保健ボランティア講座

精神障がいへの理解を深め、精神障がい者が豊かな地域生活を送ることができるように、その橋渡し役としての精神保健ボランティアの養成を行った。

□10月13日・20日・27日（全3回） 受講者6人

②ボランティア活動者研修会・交流会の開催

ア ボランティア活動者研修会

ボランティア活動者が一堂に会し、地域に根付いたボランティア活動のあり方を学び、スキルアップを図り、今後のボランティア活動の充実を図った。

□3月8日 参加者44人

イ ボランティア活動者交流会

ボランティアセンター登録団体及び個人活動者の情報交換、交流を通し様々な分野でのボランティア活動の状況を把握し、今後の活動のネットワークづくりを図った。

□7月4日 参加者75人

③ボランティアの活動支援事業

登録ボランティア団体・個人及び除雪ボランティア活動者が安心して活動するために、ボランティア活動保険料の助成やボランティアに関する情報提供を行い、活動の促進に努めた。

- ボランティア団体助成 17 団体 170,000 円
- ボランティア活動保険 個人 54 人（一般 13 人・除雪 41 人）
 26 団体 （491 人）

（７）将来を見据えた福祉教育の推進

①学童・生徒のボランティア活動普及事業

小・中・高等学校の学童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、実践活動によりボランティアの心と社会連携の精神を養うことを目的に、各学校に対し福祉教育のボランティア活動実践活動費の助成支援を行った。

- 小・中・高等学校 25 校 助成金 474,000 円

②児童・生徒のボランティア体験研修会の開催【延期・中止】

児童・生徒部会が中心となり、開催に向け準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期・中止した。

- 8 月 8 日⇒延期 11 月 26 日⇒中止

③指定地域福祉教育セミナーの開催

教育関係者を対象に、学校におけるボランティア活動実践発表や障がい当事者の講話・点字体験等を通じて、福祉教育に関する今後の在り方や方向性等について研修を行い、福祉教育の充実を図った。

- 1 月 24 日 参加者 10 人

④地域福祉教育推進事業

学校からの福祉体験学習の要請に応じ、障がい当事者及びボランティアを講師派遣し、効果的な学習を実施することで、ノーマライゼーションの理念普及に努めた。

- 派遣人数 136 人

【福祉体験学習実施状況】

実施日	学校名	学年・人数	学習内容
10月28日	日の出小学校	3年生 51人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
11月 1日	月形小学校	3年生 9人	聴覚障がい者の講話、手話体験
11月 4日	北真小学校	6年生 22人	高齢者の講話、高齢者疑似体験
11月 7日	岩見沢西高校	3年生 17人	聴覚障がい者の講話、手話体験
11月 9日	北真小学校	5年生 18人	車いす利用者との交流、車いす体験
11月10日	北真小学校	4年生 23人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
11月11日	日の出小学校	4年生 56人	車いす利用者との交流、車いす体験
11月16日	日の出小学校	6年生 58人	視覚障がい者の講話、点字体験
11月17日	日の出小学校	2年生 54人	聴覚障がい者の講話、手話体験

11月29日	日の出小学校	1年生 47人	視覚障がい者との交流
12月 6日	緑中学校	全校生 274人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
1月27日	第二小学校	6年生 24人	車いす利用者との交流、車いす体験
2月 1日	北真小学校	3年生 16人	視覚障がい者の講話、点字体験
2月 6日	第二小学校	4年生 21人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2月 7日	北村中学校	1年生 10人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2月13日	第二小学校	1年生 29人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
2月16日	第二小学校	3年生 21人	高齢者の講話、高齢者疑似体験
2月17日	中央小学校	3年生 60人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2月20日	第一小学校	3年生 62人	聴覚障がい者の講話、手話体験
2月21日	第一小学校	4年生 60人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
3月 7日	メーブル小学校	3・4年生 7人	視覚障がい者の講話、ガイドヘルプ体験
合計	21回	939人	

※中止校 3校（新型コロナウイルス感染拡大防止のため）

（８）地域における権利擁護の推進

①日常生活自立支援事業（北海道社会福祉協議会受託事業）

判断能力に不安のある認知症高齢者、知的・精神障がい者等に対して、福祉サービスの利用援助や日常的金銭管理を行い、自立した地域生活を送ることができるよう支援するとともに、生活支援員の確保と資質向上に努めた。

ア 利用契約者等件数

区 分	認 知 症 高 齢 者	知 的 障がい者	精 神 障がい者	そ の 他	合 計
相 談 件 数	906 件	242 件	388 件	8 件	1,544 件
新規利用契約件数	3 件	0 件	3 件	0 件	6 件
解 約 件 数	2 件	1 件	3 件	0 件	6 件
利 用 契 約 件 数	12 件	4 件	7 件	0 件	23 件
生活支援員登録者数	27 人(新規登録 4 人 登録辞退 10 人)				
生活支援員活動者数	18 人(年度末時点)				

イ 生活支援員研修交流会

開催日	内 容	参加者数
令和 5 年 2 月 22 日	北海道社会福祉協議会指揮監督者・自立生活支援専門員・生活支援員研修（DVD 視聴）と合同開催	15 名

②成年後見支援センター事業（岩見沢市受託事業）

権利擁護全般に関する相談支援や成年後見制度の申立手続支援を行うとともに、法人後見事業を実施し、市民後見人（法人後見支援員）とともに、成年被後見人等の適切な身上保護及び財産管理に努めた。

地域における成年後見制度の理解促進、ニーズ発掘のため、講演会等の普及啓発に積極的に取り組むとともに、今後、増大する成年後見制度のニーズに対応するため、市民後見人の養成に積極的取り組み、担い手の確保に努めた。

ア 相談・申立手続支援

相 談 状 況	新規相談	123 件	計 830 件
	継続相談	707 件	
申立手続支援件数	今年度中に申立に至った件数（実件数）		8 件

イ 成年後見支援センター運営協議会・事例検討会

開 催 日	会 議 名	出席者数
令和 4 年 7 月 14 日	第 1 回成年後見支援センター運営協議会	14 名
令和 4 年 10 月 25 日	第 2 回成年後見支援センター運営協議会	16 名
令和 4 年 7 月 14 日	第 1 回成年後見支援センター事例検討会	8 名
令和 4 年 10 月 25 日	第 2 回成年後見支援センター事例検討会	10 名
令和 5 年 2 月 20 日	第 3 回成年後見支援センター事例検討会	9 名

ウ 市民後見人養成講座

開 催 日	講 座 名	受講者数	修了者数
令和 4 年 9 月 27 日～10 月 18 日 毎週火曜日 全 4 日間	市民後見人養成講座 （基礎編）	12 名	12 名
令和 4 年 11 月 1 日～11 月 29 日 毎週火曜日 全 5 日間	市民後見人養成講座 （フォローアップ編）	9 名	9 名

エ 法人後見受任状況

新規受任件数	2 件
受任終了件数	3 件
継続受任件数	17 件

オ 法人後見支援員の登録と活動状況

法人後見支援員登録者数	42 名（新規登録 5 名 登録抹消 2 名）
法人後見支援員活動者数	24 名（年度末時点）

カ 法人後見支援員スキルアップ研修会

開 催 日	研修会名	参加者数
令和 4 年 7 月 5 日	第 1 回法人後見支援員スキルアップ研修会	26 名
令和 5 年 2 月 20 日	第 2 回法人後見支援員スキルアップ研修会	29 名

キ 成年後見制度講演会

開 催 日 時	令和 5 年 3 月 19 日（日）14 時 00 分～15 時 40 分
内 容	講演「司法書士から学ぶ成年後見制度 ～身近なまちの法律家の立場から～」 講師 志藤合同司法書士事務所 司法書士 志藤 洋一 氏
参 加 者 数	43 人

(9) 生活困窮者等への支援

①生活福祉資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

他の貸付を受けることができない低所得者や高齢者、障がい者の世帯に対し、民生委員児童委員等と連携し、必要な資金の貸付と相談支援を行うとともに、岩見沢市生活サポートセンターりんく等の関係機関と連携し、生活困窮者世帯の経済的自立や生活意欲の助長促進を図った。

また、特例貸付が令和4年9月30日まで延長となったため、引き続き、新型コロナウイルスの影響により日常生活の維持が困難となった世帯に対し、緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付を行うとともに、償還免除等の申請に係る相談及び手続きについて支援を行った。

□貸付件数及び貸付金額

資金種類	相談件数	貸付件数	貸付金額
教育支援資金	204 件	1 件	4,490,000 円
総合支援資金		1 件	1,224,000 円
緊急小口資金		7 件	610,000 円
合 計	204 件	9 件	6,324,000 円

□特例貸付件数及び貸付金額（令和4年4月1日～9月30日）

資金種類	相談件数	貸付件数	貸付金額
緊急小口資金【特例貸付】	73 件	35 件	7,000,000 円
総合支援資金【特例貸付】	65 件	46 件	24,300,000 円
合 計	138 件	81 件	31,300,000 円

②特別生活資金貸付事業（北海道社会福祉協議会委託事業）

福祉年金等の所得が支給停止限度額以下の、高齢者世帯、障がい者世帯などに対し、暖房費など冬期の生活に必要な資金の貸付を行った。

□2 件 100,000 円

③愛情銀行緊急生活費交付事業

やむを得ない事情により、緊急に生活費が不足した世帯に対し、緊急生活費の貸付支援を行った。

□10 件 131,129 円

④法外援護事業

生活保護申請から決定までの生活つなぎ資金貸付や金銭不所持者等の送還旅費交付を市福祉事務所を通じて行い、制度の狭間である困窮者の支援に努めた。

□生活つなぎ資金 57 件 593,000 円

□送還旅費 6 件 5,320 円

(10) 災害ボランティアセンターの組織整備

①災害ボランティアセンター体制の整備

災害ボランティアセンター設置・訓練は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したが、災害ボランティアセンターに係る研修会に担当職員が参加し、災害時における被災者ニーズや支援、必要な情報発信などについて、理解を深め、職員の資質向上に努めた。

また、市内5つのライオンズクラブと「自然災害発生時における災害ボランティアセンター支援に関する協定」を締結し、災害時に迅速かつ円滑なボランティアの受入れ・活動体制の強化に努めた。

□協定締結日 12月20日

②災害ボランティアセンター研修会の開催

岩見沢市災害ボランティア事前登録者、防災士等を対象に、被災地支援経験者から災害ボランティアセンターの役割等の講話やボランティア活動報告を通して、災害ボランティアセンターの活動について理解を深め、災害時におけるボランティアセンター運営支援スタッフ及び活動者の養成に努めた。

□11月5日 参加者 38名

(11) 共同募金運動への協力

新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、各種募金活動を実施するとともに、岩見沢市限定寄付金付ピンバッジ募金をはじめ赤い羽根自動販売機・募金箱の設置を企業や関係団体等に協力依頼を行い、共同募金への理解促進を図り、地域福祉活動の財源である共同募金運動の推進に努めた。

□実績額

区 分	令和3年度	令和4年度	増 減
赤い羽根共同募金	7,363,160円	6,719,098円	△644,062円
歳末たすけあい運動	6,731,400円	6,068,809円	△662,591円

(12) 行政や関係機関・団体との連携

地域における多様な生活課題や福祉ニーズに応えるため、行政や関係機関等と情報共有等を行い、それぞれの立場や役割を理解し、連携・協働による地域福祉の推進に努めた。

2 運営基盤の強化と財源確保【重点】

会費や寄付金、共同募金の配分金が減少傾向をたどっており、収支のバランスが悪化していることから、更なる業務の効率化やコスト削減を行うとともに、安定的な自主財源の確保のため、岩見沢商工会議所やいわみざわ商工会加盟の各企業等に企業会員・特別会員への入会を依頼し新規会員の確保に努めた。

（１）社会福祉協議会を取りまく動向等の調査、検討

①福祉情勢の把握

北海道社会福祉協議会や北海道社協職員連絡協議会等が主催する講習会や研修会に積極的に参加し、国の社会福祉制度や施策の動向等の把握に努めるとともに、これからの地域福祉の在り方について理解を深めた。

②地域課題の把握と他社会福祉協議会との連携

空知管内社会福祉協議会連絡協議会をはじめとした他社会福祉協議会と連携し情報交換した。

（２）人材の育成

①職階別に応じた研修の実施

役員の外部研修参加を促進するとともに、職員の経験年数や能力等に応じた役割を担うよう、階層別の研修会等の参加を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から研修会の中止が相次いだことから、オンライン研修に積極的に参加し資質向上に努めた。

②各種研修会・講習会等への参加

各種研修会・講習会に積極的に参加し、専門的な知識や技術を身につけ、サービスの向上に努めた。

③職場研修の実施

- ・社協連絡会
- ・メンタルヘルス研修会
- ・ホームヘルパー内部研修
- ・ケアマネージャー内部研修

（３）財源確保への取り組み

①社協会員加入の促進

社会福祉協議会の活動に対する理解者を増やすとともに、自主財源を確保するため、会員の募集を積極的に行い、岩見沢商工会議所やいわみざわ商工会加盟の各企業等に依頼し新規会員の確保に努めた。

②共同募金活動の効果的な展開

岩見沢市共同募金委員会と連携・協働を図り、「共同募金における新型コロナウイルス感染予防に係るガイドライン」を示しながら、街頭募金を始め、各種募金活動を行うとともに、岩見沢商工会議所及びいわみざわ商工会加盟の各企業等に対し、寄付金付きピンバッジ頒布や赤い羽根自動販売機の設置、法人募金の協力依頼を行うとともに、職員が直接訪問し、募金箱等の新規募金協力先の開拓に努めた。

また、市内イベント会場内に募金ブースを設置するとともに、各団体・機関等の会合に出席し、共同募金の理解と協力を呼びかけ、共同募金運動の推進に努めた。

内 容		金 額
香典返し寄付金	32 件	910,000 円
一般寄付金	36 件	1,167,754 円
一般会員（1 世帯年額 100 円 235 町会 26,216 世帯）		2,621,600 円
特別会員（1 口年額 5,000 円 53 団体 81 口）		405,000 円
賛助会員（1 口年額 1,000 円 327 人 493 口）		493,000 円
企業会員（1 口年額 10,000 円 48 社 50 口）		500,000 円
共同募金	赤い羽根共同募金	6,719,098 円
	歳末たすけあい	6,068,809 円

3 社会福祉協議会の活動への理解促進

広報活動の強化・充実を図るため、社協だよりの発行等の事業を行った。

（１）広報活動の充実

①広報紙「社協だより」の発行

地域福祉活動の取り組みについて、広く市民から理解を得るため特集記事を掲載するなど、紙面の工夫や内容の充実を図るとともに、全世帯に配付することで当会事業の具体的な内容と福祉情報を広く周知した。

□発行回数 年 3 回（7 月・12 月・3 月）

□発行部数 各回 32,700 部

②ホームページを活用した情報発信

社会福祉協議会事業計画や事業報告、予算、決算等関係書類、附属明細表等について情報発信するとともに、各種事業の取組や講座開催などの情報をいち早く提供した。

4 日常生活用具の助成・物品貸出事業

（１）日常生活用具の助成

日常生活を営む上で、生活用具が必要と認められた方に助成を行った。

また、市民の温かい善意と思いやりによる金品の寄付及び預託を受け、真に必要とする方々への提供を行った。

□杖助成 9 人

□アイスピック助成 7 人

(2) 物品貸出事業

一時的に車椅子が必要になった方や、福祉教育等に車椅子の貸出を行うとともに、イベント等に行事用テントの貸出を行った。

□車椅子貸出状況

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
件 数	53 件	56 件	65 件
台 数	65 台	112 台	100 台

5 施設の適正な管理運営

岩見沢広域総合福祉センターについては、地域福祉活動の拠点施設として活用されるよう、福祉・ボランティア団体等の利用者の利便性向上を図るとともに、独自の基準で施設の利用を制限するなど新型コロナウイルス感染拡大防止対策に努めた。

また、岩見沢市から指定管理者として管理運営を行っている「岩見沢市高齢者福祉センター」、「岩見沢市栗沢福祉センター」、「栗沢デイサービスセンター」については、公共施設としての設置目的を踏まえながら、利用者にとって親しみやすい施設となるよう、適正な管理運営に努めた。

全ての施設において、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者の検温・手指消毒の徹底・名簿の提出等の対策を講じた中で管理運営を行った。

(1) 岩見沢広域総合福祉センター

①開館時間及び休館日

開館時間	午前 9 時～午後 9 時
開館日数	336 日
休館日	毎月第 2、第 4 日曜日及び 12 月 29 日～翌年 1 月 3 日

②消防避難訓練等の実施

中止	新型コロナウイルス感染拡大のため未実施
----	---------------------

③施設の改修・修繕

(ア) 女子便器給水管漏水修理
(イ) 危険物貯蔵地下タンクライニング工事
(ウ) 変圧器及び高圧コンデンサ入替工事
(エ) 誘導チャイム取替

④年度別利用人員及び年度別年間使用料収入状況

区 分	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
利 用 人 員	29,926 人	26,119 人	28,701 人
1 日平均利用人数	89.3 人	78.0 人	85.4 人
使用料収入	848,540 円	751,490 円	776,820 円

⑤ 年度別用途別利用数

(単位：件)

区 分	令和 2 年度		令和 3 年度		令和 4 年度	
	有料	無料	有料	無料	有料	無料
会 議	33	279	75	269	53	316
集 会	0	1	0	0	1	1
講 習	10	19	11	22	19	89
研 修	1	12	0	34	2	38
例 会	219	140	137	118	208	207
そ の 他	11	404	16	279	11	304
小 計	274	855	239	722	294	955
社協・町連 母子寡婦福祉会 更生保護サポートセンター	395	1,331	383	1,191	342	1,256
合 計	2,855		2,535		2,847	

(2) 岩見沢市高齢者福祉センターふれあい（指定管理施設）

①開館日及び利用時間

受 託 日	平成 31 年 4 月 1 日
開 館 日	月曜日～土曜日まで（部会活動は月曜日から金曜日まで）
開 館 日 数	293 日 ※エアコン取付のため休館（令和 4 年 6 月 13 日～6 月 21 日まで） ※入浴（令和 2 年 2 月 26 日から休止中）
利用時間帯	午前 9 時～午後 5 時まで

②利用者数

区 分	一 般		部会等		合 計	
利 用 人 数	2,418 人		10,024 人		12,442 人	
男女別利用人数	男性	1,187 人	男性	4,973 人	男性	6,160 人
	女性	1,231 人	女性	5,051 人	女性	6,282 人
1 日 平 均	8.2 人		34.2 人		42.4 人	

③趣味と教養部会利用状況

部 会 名	利用回数	利用人数	部会名	利用回数	利用人数
ゆるゆるストレッチ	30 回	235 人	いきいきサークル	50 回	1,033 人
パソコン同好会	8 回	53 人	民謡踊部会	37 回	388 人
俳句部会	10 回	69 人	華道部会	15 回	86 人
太極拳	17 回	84 人	コスモスの会	0 回	0 人
卓球部会	47 回	1,700 人	ふまねっと部会	25 回	177 人
書道部会	45 回	428 人	こぶしクラブ	47 回	483 人
太鼓部会	25 回	230 人	陶芸部会	179 回	1,711 人
木彫部会	30 回	85 人	囲碁同好会	234 回	1,844 人
剣詩舞吟遊会	15 回	71 人	将棋愛好会	197 回	564 人
ダンス部会	33 回	390 人	小 計	1,083 回	9,777 人
茶道部会	21 回	104 人	パソコン教室	10 回	80 人
謡吟会	18 回	42 人	オモチャの病院	45 回	167 人
合 計				1,138 回	10,024 人

④主な行事

	開催した行事	中止した行事
(ア)趣味と教養部会		・展示発表会 ・舞台発表・ ・呈茶席 ・ふまねっと体験教室
(イ)その他	・ふれあいまつり	・土曜初心者陶芸教室 ・ビデオ映画上映会 ・健康相談 ・ふれあいコンサート ・カラオケの集い ・移動心配ごと相談所 ・センター大掃除 ・お楽しみ会

(3) 岩見沢市栗沢福祉センター（指定管理施設）

受 託 日	平成 31 年 4 月 1 日
営 業 日	月曜日～金曜日まで（祝日を除く）
開 館 日 数	243 日
時 間	9 時 00 分～17 時 30 分まで
利 用 人 数	年間：285 人・1 日平均：1.2 人
職 員 配 置	嘱託職員 1 人（支所業務と兼務）
利 用 団 体	・栗沢更生保護女性会・岩見沢市老人クラブ連合会栗沢地区協議会 ・岩見沢市赤十字奉仕団栗沢班・栗沢サロン・親子ひろば

(4) 栗沢デイサービスセンター（指定管理施設）

受 託 日	平成 31 年 4 月 1 日			
区 分	指定通所介護・第一号通所介護事業（予防通所介護相当）【通常規模型】			
定 員	月・火・木・金曜日 30 人(1 単位目) 水・土曜日 20 人(2 単位目)			
利用人数		利用人数	月・火・木・金	水・土
	営業日数	308 日	206 日	102 日
	実人数	658 人	—	—
	延人数	4,469 人	3,407 人	1,062 人
	1 日平均	—	16.5 人	10.4 人
職員登録人数 (3 月 31 日現在)	管理者（兼務） 1 人 生活相談員 2 人 常勤介護員 2 人 臨時介護員 6 人 臨時看護師 4 人 臨時運転手 3 人			
サービス提供 時間帯配置基準	月・火・木・金 職員配置基準 7 人 水・土曜日 職員配置基準 6 人			
営 業 日	週 6 日⇒月・火・水・木・金・土（祝日を含む） （日曜日及び 12 月 31 日から 1 月 3 日まで休業）			
時 間	8 時 30 分から 17 時 45 分まで 【サービス提供時間帯】9 時 15 分～16 時 30 分の 7.25 時間			
介護内容	日常生活上の援助 （排泄の介助、移動の介助、その他必要な身体介護） 送迎介助、入浴の介助、食事の介助、機能訓練、レクリエーション 介護上の相談・助言、介護方法の指導等			
利 用 料	介護報酬の告示額による ・法定代理受領分(国保連合会) ・法定代理受領分以外(個人負担)			
そ の 他 費 用	食費(1 回につき 550 円)、行事食(1 回につき内容により 600～700 円) お茶・おやつ代(1 回につき 100 円) オムツ代(実費)、その他通常必要なもの			
区 域	岩見沢市全域			

6 福祉サービス事業の推進及び経営の健全化【重点】

当会が実施している居宅介護支援事業、訪問介護事業、通所介護事業は、利用者の減少などにより非常に厳しい経営状況が続いていることから、令和2年度に策定した経営改善計画の最終方針に基づき、職員体制、サービス管理体制、運営形態等の見直しを行い、引き続き経営の健全化に努めた。

この結果、訪問介護事業ではパートヘルパーの増員により収支が改善し黒字に好転したが、通所介護事業では新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり利用者は減少し収支の赤字幅はさらに拡大した。

長引くコロナ禍における感染予防対策についても、消毒やマスク着用を徹底するとともに、利用者の体調変化に注意し、利用者が安心して生活できるよう配慮しながらサービス提供の維持に努めた。

また、居宅介護支援事業では、近年増加している高齢者虐待ケース等の困難事例について、地域包括支援センターや市役所等の関係機関と連携しながら、積極的な対応に努めた。

障がい児通所支援事業では、発達に遅れや心配のある乳幼児・児童やその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受けることができるよう努めた。

(1) 居宅介護支援事業

地域包括支援センターや医療機関と連携を深め、積極的に新規利用者の受入に努めるとともに、要介護者の意向に添い自立した在宅生活が続けられるよう、居宅サービス計画書（ケアプラン）作成や介護サービスに係る連絡調整等に努めた。

定期的な会議の開催や地域包括支援センターからの困難事例の受入れ体制を維持し特定事業所加算Ⅱの月額4,070円／1人の加算を受け、収益の増加に努めた。

職員の資質向上を図るため、地域包括支援センターや各医療機関等が主催するオンライン研修に参加できるようWebカメラ等の器材を整え、研修受講に努めた。

区 分	令和3年度	令和4年度	増 減
要介護利用者数	2,932人	2,812人	△120人
予防利用者数	814人	518人	△296人
要介護月平均利用者数	244.3人	234.3人	△10人
予防月平均利用者数	67.8人	43.2人	△24.6人

(2) 訪問介護事業

事業収入の安定とサービス向上には、利用者を増やす取り組みとパートヘルパーの安定した確保が必要であることから、昨年度に続きPRパンフレットを作成して居宅介護支援事業所に配付し新規利用者の増加に努めた。

また、パートヘルパーの確保については、ハローワークや求人誌、社協だよりでの募集、ヘルパー募集のステッカーを公用車に貼り付ける取り組みを継続したほか、ヘルパーの資格取得に必要な費用の助成制度を新設した結果、4名のパートヘルパーを採用することが出来た。

また、収益面では、要介護利用者の割合が増えたこと、障害福祉サービスではパートヘルパーの増員により利用者の利用回数の増加に対応できたことで、収入が支出を上回り収支の改善を図る事が出来た。

①訪問介護事業と介護予防・日常生活支援総合事業

日常生活に支障のある高齢者等に対し、訪問介護計画書に基づき訪問介護員を派遣し、利用者が可能な限り自宅で自立した日常生活を送れるよう、生活全般にわたるサービス提供を行った。また、サービス提供責任者が定期的に利用者宅を訪問して、利用者や家族等から要望を聞き取ってサービス向上に努めた。

要支援者に対しても介護予防・日常生活支援総合事業により切れ目のないサービス提供を行い在宅生活の支援に努めた。

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	増 減
利用者数	1,273 人	1,299 人	26 人
延利用回数	7,631 回	7,672 回	41 回
月平均利用人数	106.1 人	108.3 人	2.2 人
月平均利用回数	635.9 回	639.3 回	3.4 回

②居宅介護事業

日常生活に支援が必要な身体障がい者及び知的障がい者並びに精神障がい者に対し、障がい者総合支援法によるサービス利用計画に基づき居宅介護従事者を派遣し、利用者が可能な限り自宅で日常生活を営むことができるよう支援を行った。

また、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスの関係機関と綿密に連携を図り、利用者ニーズに沿った細やかな総合的サービス提供を行った。

区 分	令和 3 年度	令和 4 年度	増 減
延利用者数	195 人	200 人	5 人
延利用回数	1,350 回	1,880 回	530 回
月平均利用人数	16.3 人	16.7 人	0.4 人
月平均利用回数	112.5 回	156.7 回	44.2 回

③相談支援事業

ア 障害のある方々が安心・充実した生活ができる事を目的として、障がい者福祉サービス等利用計画書の作成や計画書に基づくサービス提供が適切に行われているかのモニタリングを定期的に実施して、障がい者の自立した社会生活を支えるための支援を行った。

イ 発達に遅れや障害のある乳幼児や児童の保護者に対しても、医療機関や学校・保育園、障害児通所事業所などの関係機関と連携して、サービス等利用計画書の作成やモニタリングを行い、安心して日常生活を送るための支援を実施した。

ウ 長引く新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、障がい者が居住する施設やグループホームへの訪問が制限されていることから、モニタリング件数は特に障がい者（18歳以上）で減少した。

区 分		令和 3 年度	令和 4 年度	増 減
障 が い 者	利用計画	81 件	100 件	19 件
	月平均	6.8 件	8.3 件	1.5 件
	モニタリング	237 件	194 件	△43 件
	月平均	19.8 件	16.2 件	△3.6 件
	認定調査	10 件	12 件	2 件
障 が い 児	利用計画	150 件	146 件	△4 件
	月平均	12.5 件	12.2 件	△0.3 件
	モニタリング	128 件	128 件	0 件
	月平均	10.7 件	10.7 件	0 件

(3) 通所介護事業

令和 2 年度に美流渡デイサービスセンターを統合し、美流渡・万字・朝日方面の利用者を受け入れると同時に、栗沢地区以外の幌向・志文町・南町方面などからも積極的に利用者を受け入れた。

また、市内の居宅介護事業所等を訪問し栗沢デイ通信やチラシを配布・PRするとともに、無料の体験利用も行い利用者の増加に努めた。

しかし、年度前半はPR 効果もあり利用者は増加したものの、12 月に入り利用者の入院や施設入所が急増し、これに冬期間の体調不良や大雪による利用控えも加わり、実利用者数は再度減少に転じた。

この結果、収入は昨年度と同程度となるが、支出では職員やその家族の新型コロナウイルス感染による休業補償やその代替え職員配置による人件費の増加などにより、赤字幅は昨年度をさらに上回る結果となった。

その他、栗沢地区における地域福祉の拠点として地域の方々に来ていただくような事業については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度も実施できなかった。

区 分		令和 3 年度	令和 4 年度	増 減
登 録 者 数		65 人	58 人	△7 人
実利用者数		54 人	53 人	△1 人
延 べ 利 用 者 数	要支援 1	429 人	475 人	46 人
	要支援 2	1,375 人	987 人	△388 人
	要介護 1	1,650 人	1,503 人	△147 人
	要介護 2	839 人	1,145 人	306 人
	要介護 3	287 人	197 人	△90 人
	要介護 4	156 人	117 人	△39 人
	要介護 5	50 人	45 人	△5 人
	合 計	4,786 人	4,469 人	△317 人

(4) 障がい児通所支援事業

①通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）

発達に遅れや障がいのある乳幼児・児童に対し、定期的な通園を通して、基本動作の習得や日常生活に必要とされる能力の発達を促すことを目的に、療育支援提供の充実に努めた。「ことばが遅い」「落ち着きがない」など保護者によってニーズは異なるが、子どもの発達状況を一緒に確認しながら、保護者の気持ちに寄り添うことに努めた。

利用延人数については、出生数の減少による少子化や事業所の増加により年々減少の傾向にあるが、今年度も昨年同様、新型コロナウイルスが影響し、児童発達支援の通園の利用が減少した。

なお、今年度より1日の利用定員を20人から15人に変更した。

区 分	令和3年度	令和4年度	増減
登録児数	119 人	106 人	△13 人
児童発達支援事業 (1日平均)	2,657 人 (11.8 人)	2,174 人 (9.3 人)	△483 人 (△2.5 人)
放課後等デイサービス (1日平均)	282 人 (1.2 人)	458 人 (2.0 人)	176 人 (0.8 人)
合計利用者数延 (1日平均)	2,939 人 (13.0 人)	2,632 人 (11.3 人)	△307 人 (△1.7 人)

②子ども発達支援センター事業（三笠市、月形町委託事業）

発達に遅れや心配のある乳幼児・児童とその保護者が、日常的に適切な相談指導や療育を受ける事が出来るよう、関係機関への情報提供を行い、地域の発達支援体制の充実に努めた。今年度は、延19件の相談があり、1件がつみき園の利用に結びついた。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、昨年度は中止となった療育講演会を今年度は開催することができた。

□関係機関連携数

令和3年度	令和4年度	増減
7 機関	8 機関	1 機関

□発達支援に関する相談件数（延べ件数）

区 分	市町名	令和3年度	令和4年度	増減
来所相談	三笠市	3 人	5 人	2 人
	月形町	4 人	1 人	△3 人
電話相談	三笠市	6 人	7 人	1 人
	月形町	6 人	6 人	0 人
合 計		19 人	19 人	0 人

□療育講演会

開 催 日 時	令和4年9月16日（金）18時15分～19時45分
開 催 場 所	文化センター2階 音楽室
内 容	講演「“わたし”が“和足し”を育てるまち ～時代のニーズに合わせた療育・教育を考える～」 講師 美瑛町教育委員会管理課 参事 目良 久美 氏
参 加 者 数	74人

7 法人運営

経営の健全化を目指すため、法人経営検討委員会を開催した。

開 催 日		議 題
令和4年8月25日	第1回開催	・経営改善計画の進捗状況について ・栗沢デイサービスセンターの経営改善が進まない要因と今後の方針について
令和5年2月16日	第2回開催	・経営改善計画の進捗状況について

8 事務局の運営

当会が事務局を担う岩見沢市共同募金委員会及び岩見沢市連合遺族会並びに岩見沢市老人クラブ連合会について、各会の目的に沿った事業の運営に努めた。

9 後援・共催・協賛

事業の後援・共催・協賛により、社会福祉協議会の趣旨普及に努めた。

（1）後援

開 催 日	行 事 名 等
令和4年4月24日	チャリティー歌で元気！北海道歌まつり in 岩見沢 彩青ふるさとで歌う
令和4年5月21日	第73回花まつり
令和4年6月26日	2022男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ
令和4年9月21日・30日、10月28日	スマートフォン初級講習会
令和4年10月23日	第57回北海道特別支援教育振興大会 第47回北海道特別支援教育関係PTA研究大会 第22回合同大会
令和4年11月8日	健康と福祉を高めるセミナー

（2）共催

なし

（3）協賛

なし